

2021年9月1日
気象業務支援センター

令和3年度第1回（通算第56回）気象予報士試験
学科試験（専門知識）の問7について

2021年8月22日に実施した第56回気象予報士試験において、学科試験（専門知識）の問7の(c)の問題文に曖昧な表現がありましたので、下記のとおり採点処理いたします。

記

専門知識の問7(c)は、寒帯前線ジェット気流・亜熱帯ジェット気流のいずれも、その風速が最大になる圏界面付近の強風軸の下には、温度風の関係から周辺より温度傾度の大きな前線帯があることを問う問題でした。

一般に、前線帯には対流圏全層にわたるものから、対流圏中・上層に限られているものなど様々なものがあります。寒帯前線ジェットに対応しては地上まで達する前線帯が存在することが多いことが知られています。一方、亜熱帯ジェット気流の形成にはハドレー循環による角運動量輸送の効果も重要と考えられており、対応する前線帯は地上に達していないことが多いとされています。

今回の問題文においては「(ジェット気流は) 温度傾度の大きな前線帯の上空に位置していることが多い」と記述しており、この「前線帯」が対流圏中・上層の前線帯を示すものか、地上まで達する前線帯を示すものか、曖昧な面がありました。

このため、問題文の「前線帯」が中・上層までの前線帯も示していると解釈した場合は問題文は「正」、地上まで達した前線帯を指していると解釈した場合は「誤」とする両方の回答があり得ると判断しました。

よって、問7の正解は①「正 正 正」としていましたが、②「正 正 誤」についても正解として採点処理することとします。

受験者の皆様にご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。